

第23回学術集会を終えて

京都橘大学看護学部 松本賢哉

日本精神保健看護学会第23回学術集会・総会 テーマ：精神看護の原点－叡智の伝承－が2013年6月15日（土）－16日（日）に京都テルサにて開催されました。

1日目の午前には、北島謙吾大会長による大会長講演では『臨地・教育から学んだ精神看護の原点と叡智』、そして坂田三允先生による基調講演では『精神看護の原点－変わっていくもの、変わってはならないもの－』のテーマで講演がありました。午後には、中村治先生による特別講演では『洛北岩倉と精神医療史－精神障害者を地域で看護するために必要なもの－』、そして宮本真巳先生 田上美千佳先生 清水美代子先生3名のシンポジストを迎え『精神看護の原点－臨床・研究・地域の叡智を伝承する－』のテーマでシンポジウムが行われました。講演内容はそれぞれの視点で精神看護・医療の原点から現在を見つめた、非常に興味深い内容でした。朝の9時から400人を超える非常に多くの参加者を迎えることができ、嬉しさもありましたが、会場が混雑し受付等対応が遅れご迷惑をおかけした事に対し申し訳ない気持ちになりました。

2日目の午後には、カールベッカー先生による市民公開講座では『日本人の死生観と癒し』のテーマで、介護疲れなどの日本が抱えている問題を講演していただき一般市民の多数の参加がありました。

今回はワークショップのエントリーが非常に多かったため、1日目の夕方・2日目の午後2回、合計3回24題のワークショップが開催できました。参加者は多くのワークショップに参加できるようにスケジュールいたしました。また一般演題も82題のエントリーがあり、22の群に細かく分け参加者が移動をしやすくすることで活発な発表と討議がされました。

今回、関西地方での開催が初めてということもあり、予想していた参加人数を遙かに超え2日間で900名を超える参加者に驚きと戸惑いがあり、対応が十分に至らなかった点が多々ありました事をお詫び申し上げますと同時に、それらの反省点は、次年度の横浜大会に引き継ぎをいたしたいと思っております。最後にこの書面をお借りして、今学会運営に携わっていただいた企画委員、実行委員、ボランティアに皆様に深くお礼申し上げます。そして、京都に足を運んでいただきました参加者の皆様、ありがとうございました。



入口



学会長講演



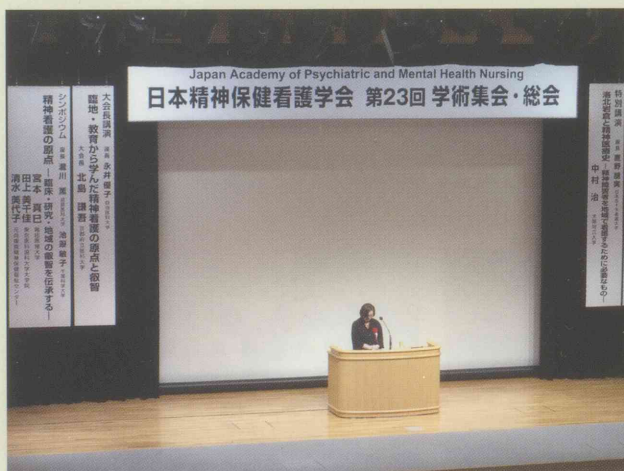
第23回学術集会スタッフ

坂田三允先生の基調講演

京都府立医科大学看護学科 北島謙吾

基調講演は、多摩あおば病院の坂田三允看護部長にご登壇をお願いしました。先生はこれまでに大学の教授と病院の看護部長双方を往来され臨床と教育のキャリアを積まれた、日本では稀有なご経歴を持たれた先生です。多くの臨床智と学識から示唆に富む基調講演が拝聴できました。『精神看護の原点—変わっていくもの、変わってはならないもの』と云うテーマの元、看護の原点とは「存在し、そばにいること、看護師と患者が共にあることの意味みたいなもの。そういう2人が共に居ることで時間が過ごせたら、それはそれで素敵なことかもしれないということ」を学びました。コミュニケーションって言葉じゃないんだなってということもとても大事なことような気がしています。」とお話頂きました。そして、変わってほしくないもの考えたとき「ウィリアム・オスラー先生の『平静の心』、相手が伝えようとしているものに耳を澄ませてみようってということとか、それを丸ごと、患者さんと同じ目線で、同じ位置に立って、同じものを見る。でも、それを同じレベルに立っているんだけど、それから少し離れて一定の距離を保つということもとても大切で、それが平静の心だと云われてます。それは同情ではなく共感という言葉が正しいんだと思うんです。これが共感でこれが同情なんて言えるほど、それを言葉で説明できるほど、私は達人でもないのだから伝えられないんですけど、いつもそうありたいと思っていることが、きっと大切なのかなと思っています。」と、その時々を感じられたことを先生の平易な語りでお話しくださったことが印象的で、会場の参加者と共に聞かせていただくことができました。

先生の基調講演から「看護の原点」としてお聴きしたのは、やはり患者さんの側にいること、そして共にいることというのが、どんなケアよりもまず基本として大事なことなんだと感じました。それから、患者さんの理解の仕方、常に患者さんを可能な限り知りたい、分かりたいと思っている、その気持ちが非常に大事なんだ云うのが、先生の率直な語りから伝わってきました。会場のテルサホールは満席で立ち見の人が出る程、参加者がすごく先生のお話を心待ちにされてたんだというのが伝わる基調講演でありました。



基調講演（多摩あおば病院・坂田三允看護部長）

シンポジウム

「精神看護の原点－臨床・研究・地域の叡智を伝承する－」

滋賀医科大学 瀧川 薫

本学会は、精神看護の原点ともいえる洛北岩倉での精神医療や、京都府癲狂院の設立以降も連綿と引き継がれてきた精神看護の叡智について、そのルーツである京都の地であらためて臨床・研究・地域の側面から振り返ってみようという、北島謙吾大会長の趣旨が心おきなく発揮された学術集会であったと思います。私自身も、シンポジウムの座長という立場で著名な先生方の刺激的で士気を高揚させる発表を聞かせていただけたという機会に恵まれました。願ってもない光栄なことに、心より感謝申し上げる次第です。

亀田医療大学の宮本真巳先生の指摘にありました「臨床・研究・教育は、どれも看護の部分領域に過ぎないわけだから、全部視野に入れなければどの領域も充実するはずはない」という指摘は、まさに至言だと思えます。加えて、「すべての基盤は臨床領域であり、そこでの気づきと工夫の累積が優れたケアとなって、新たな実践課題への取り組みにより研究は発展し、教育に還元されていく」という考え方は、まさに、いずれの領域にも精通された宮本先生だからこその発言です。また、東京医科歯科大学大学院の田上美千佳先生は、長年にわたり研究者として活躍されてきた東京都医学総合研究所（旧東京都精神医学研究所）での成果を、如何に工夫しながら臨床の場に還元してこられたかを述べられました。そして、その視点は新たに教育へと向かっています。先生の指摘される、研究を通して「可視化できない実践知を伝えていくこと」により「ともに歩むケア」が可能となるという考え方は、臨床に立脚する研究者の理想の姿といえます。さらに、元兵庫県精神保健福祉センターの清水美代子先生は、臨床家としての自負を「心と体、そして環境をもトータルに見る」ことであるとし、自身の経験から、寄り添いながら「人」優先の理解をし、「人としての尊厳」を支える看護をするためにも現場を担いつつ研究活動を続けていくことが、自らのアイデンティティの基盤であったと述べられました。臨床家からしてみれば、そのフットワークの軽さと考察の深さは羨望的といえます。

いずれの先生方も、そのバランス感覚の素晴らしさには刮目せざるをえません。長年にわたる実践の場が教育であろうと研究であろうと臨床であろうと、必ず当事者の方々の幸福を追求するために直接的・間接的に他の領域も意識され、それを突き詰めていくことで精神看護における真理の追究ともいべき活躍をされてこられたのです。

フロアの方々にも加わっていただき質疑応答も行いましたが、シンポジストの迫力に圧倒され、また座長としての自身の稚拙な司会進行も手伝って、些か纏めが中途半端になってしまいました。ただ、形式的な総括など不要なほど素晴らしい発表だったからこそその結果というのが正解ではないでしょうか。まさしく、精神看護の叡智を伝承している先生方からの「目から鱗が落ちる」ご報告だったと思います。



第23回学術集会に参加して

医療法人財団青溪会 駒木野病院看護部 則村 良

私は今年度の日本精神保健看護学会第23回学術集会で「ヘルピングスキルを学ぼう」というワークショップを開催させていただきました。これまでの学術集会では、一般の参加として、また演題発表という形で毎年参加をしていたのですが、今回初めてワークショップを開催することになり、今までになく学会にコミットメントできた感覚が得られ、私のなかでとても貴重で思い出深いものとして残っております。そのような体験になったのも、当日に参加していただいたたくさんの方々との交流を持てたこと、準備から協力をいただいたメンバーたちとワークショップを開催しようという気持ちが学会・学術集会に対する私の態勢を変えたからだと思います。ワークショップ中には機材トラブルが生じるなどのハプニングもあったのですが（参加していただいた皆さま本当に迷惑をおかけしました）とても楽しい時間になりました。準備、本番と協力していただいたメンバーの皆さまありがとうございました。チャンスがあれば来年度以降も開催出来ればと思っていますので、よろしくお願いいたします。



第23回学術集会に参加して

福島県立医科大学看護学部 細川 香苗

第23回学術集会の開催地は、根っからの東北人である私にとって遠い憧れの街、京都でした。修士論文で取り組んだ研究について発表する機会をいただいていた私は、市内観光を…というわけにもいかず、学術集会1日目からなんとも落ち着かない時間を過ごしていました。そのような、頭の中が不安や緊張で飽和した状態だったにもかかわらず、坂田三允先生の基調講演は特に印象強く、私の記憶に残っています。心を病む人々と長く関わってきたご自身の経験をもとに、先生のユニークな「看護ゴミ箱論」や、臨床医学・医学教育の父であるWilliam Oslerにもふれつつ展開されていた講演は、本学術集会のサブテーマである「叡智の伝承」について、非常にわかりやすく、そしてより身近な形で示されていました。

2日目に行った自らの一般演題発表では、限られた時間の中で効果的にプレゼンテーションすることの難しさを改めて感じるとともに、発表後にいただいたコメントからも新たな課題が見出され、この経験を次につなげていかなければと強く感じました。

楽しく、充実し、刺激に満ちた京都での2日間は、瞬間間に過ぎて行きました。憧れの街からいつもの街に戻り、日常が流れていきますが、素晴らしい講演の記憶とほろ苦い発表の経験、どちらも自分の身となり力となるように、日々励んでいきたいと思えます。

理事会・評議員会・総会報告

平成25年6月14日に、京都テルサ会議室において、平成24年度第5回理事会、および第5回評議員会を開催致しました。評議員会では、第8期役員より、平成24年度事業報告・収支決算が報告され、平成25年度事業計画・予算案が承認されました。

6月16日には、日本精神保健看護学会第23回総会（京都テルサ）を開催し、以下が承認されました。詳細は、日本精神保健看護学会誌に掲載予定の議事録をご参照ください。

1. 平成24年度事業報告および収支決算報告

2. 平成25年度事業計画

学術集会の開催、学会誌およびニュースレターの発行、ホームページの運営、学術連携に関する活動、研修会やワークショップの企画、災害支援に関する活動、研究助成事業など、例年の事業内容を充実発展させていくことを予定しています。

さらに平成27年度4月を目処に、一般社団法人化すること、理事会を中心に定款作成など具体的な準備をすすめていくことについて承認が得られました。今後、適時会員の皆様への情報発信や説明会などを行っていく予定です。

3. 平成25年度予算

平成25年度事業計画に基づいた予算が承認されました。

4. 平成25年度日本精神保健看護学会研究助成事業

応募の結果、2件の研究が審査によって採択されました。

研究代表者 庄司寛子（光愛病院） 研究課題「就労継続支援施設を利用する精神障がい者への看護ケアモデルの開発」 300,000円

研究代表者 高橋葉子（東北大学大学院医学系研究科） 研究課題「東日本大震災における被災地の精神科病院の看護師の体験に関する研究」 300,000円

5. その他

平成25年6月7日現在、正会員数は1,079名となりました。マイページ登録者も約8割と多くの皆様に活用いただいております。理事会では、会員の皆様に事業内容をはじめ、精神看護学の実践や研究、教育などに関する情報発信を引き続き行ってきたいと思っております。

日本精神保健看護学会は「一般社団法人化」に向け始動します

理事長 野末 聖香

平成20年12月に「新公益法人法」が施行され、民間組織は公益目的ではなくとも非営利目的であれば法人化が可能となりました。日本学術会議から学会に向け法人格を取得することが推奨され、諸学会の法人化が進んでいます。本学会でも、平成25年6月16日の総会で、「任意団体」から「一般社団法人」に移行するかどうかについて議論しました。法人化すれば、社会的な人格を持つことにより社会的信用が高まり、法人名義による財産管理ができるようになります。一方で、事務処理が煩雑化し、法人化に伴う新たなコストが発生します。このようなメリット、デメリットを検討し、会員数が1,000名を越えて財政的には可能であろうとの見通しから、本学会は平成27年4月をめどに一般社団法人に移行することが議決されました。今後は、ご承認いただいたように理事会で定款案を作成し、平成26年度の総会で定款の合意に至るよう、準備を進めていきます。また、その間会員の皆様への法人化説明会を開催する予定です。

会員の皆様にはこれからもご理解とご協力を、どうぞよろしくお願いいたします。

学術連携委員会からのお知らせ

学術連携委員長 宇佐美 しおり

残暑厳しい日々が続きますが、皆様におかれましては大変お忙しい日々と思います。今日は学術連携委員会活動の報告とお礼を申し上げたいと思います。

1. 学術連携委員会では、7月13-14日に、慶応義塾大学看護医療学部（信濃町キャンパス）において、日本総合病院精神医学会との共催による精神科リエゾンチーム講習会を開催いたしました。両学会の黒木宣夫理事長、野末聖香理事長からご挨拶を頂き、「効果的なチームとは何か」について三井記念病院の中嶋義文先生に講演を頂いた後、北里大学病院（山本賢司医師）、横浜市立市民病院（福嶋好重CNS）の精神科リエゾンチームについてお話しを頂きました。その後、精神科リエゾンチームにおける運用上の課題を討議しましたが、機能的かつ効果的なチームを作ることの困難さが語られていました。2日目は精神科リエゾンチームにおける各職種の役割をお話し頂き、午後からは事例を用いた模擬カンファレンスを体験し発表いたしました。特に模擬カンファレンスでは各職種の立場を尊重しながら患者の状態に応じた治療目標の設定を行うこと、各職種の効果的な活用などが課題として語られていました。2日間とも暑い中ではありましたが、皆様には熱心に参加して頂きました。今回、広報後4日間で、満員となりましたが、次年度は、早くから会場の確保を行い、多くの皆様に参加していただけるよう企画したいと考えております。参加者の皆様また企画から運営まで惜しみなく協力くださいました学術連携委員会委員の先生方に、この場をかりてお礼を申し上げます。
2. また学術連携委員会では6月に行われました京都での大会において、精神科看護における倫理的問題と対処に関する質問紙調査をお願いいたしました。学会員で臨床現場で仕事をされている看護職の皆様の中の約40%の方にご回答頂きました。現在分析中ですが、また結果をホームページなどを通じて公表させていただきます。
3. さらに、8月から、平成26年度診療報酬改定にむけた厚労省ヒアリングが開始されました。当学会からも4つの診療報酬を提案しておりますので、さらに準備を進めてまいります。

皆様にも何かとご協力を頂きますが、どうかよろしくお願いいたします。

教育活動委員会からのお知らせ

本年度は、次の研修会を企画しています。

①「基礎から学ぶEBN」

講師：片岡弥恵子さん（聖路加看護大学）

日時：2013年8月24日（土）13：00～16：00

場所：慶應義塾大学信濃町キャンパス新教育研究棟2F講堂

趣旨：EBNとは？エビデンスをつくる・伝える・使うとは？について、ウィメンズヘルス・助産学を専門領域とされる片岡先生に、EBNを基礎から学びます。

②「実践研究の方法：フィールドワークという経験」

発表者：会田玲子さん（東尾張病院）、児玉まゆみさん（愛知医科大学）

日時：2013年9月7日（土）13：00～16：00

場所：名古屋港湾会館第1会議室

趣旨：大学院でのフィールドワーク研究の経験から、フィールドでどのように研究テーマを見つけ、研究としてまとめていったのか、そこにはどのような意味があったのかについて話していただきます。

③「私たちの看護研究：看護の場で研究に取り組むには」

日時：2013年10月26日 14：00～16：00

場所：高知県立大学池キャンパス

趣旨：精神科病院や地域で取り組んでいる、もしくは取り組もうとしている看護研究をもちより、そのプロセスで困っていることや苦労していることなどを話しあい、どのように進めていけばよいかを参加者とともに考えます。

④「入院制度改革と精神障害者の自立支援－医療と福祉のミゾをどう埋めるか－」

講師：門屋充郎さん（NPO法人十勝障がい者支援センター理事長）

日時：2013年12月1日（日）13：00～16：00

場所：日本赤十字看護大学201教室

趣旨：精神科ソーシャルワーカーの草分け的存在である門屋充郎氏をお招きして、精神障害者の自立支援に向けて、医療と福祉とが連携するにあたっての課題とその克服についてお話ししていただきます。

※5回目の研修会は未定です。決定次第、学会ホームページなどでお知らせします。すべての研修会の詳細は、ホームページをご覧ください。

日本精神保健看護学会第24回学術集会のご案内

第24回学術集会のテーマは、「嗜癖を知って看護に生かすー精神保健看護とアディクション問題ー」です。嗜癖を医学モデルで捉えると、依存症になります。依存する人への看護とは、依存症者と己（看護師）の自立を目指す看護であり、それは互いが、より経験に開かれていくプロセスでもあります。このような関係性のあり様は、精神保健看護に通底する治療的・支援的かかわりの基盤に相当するものと考えます。

そこで学術集会では、基調講演として、ナースプラクティショナー教育にも携わられているテキサス大学教授、ダイアン・スノー先生をお招きし、アディクション問題を含めた精神保健医療における高度実践看護の実際と展望についてご講演いただきます。次に、シンポジウムでは「精神保健医療における高度実践看護と将来展望」というテーマにて、リエゾン精神看護、精神科急性期看護、退院支援・地域精神看護、精神科訪問看護の4領域でご活躍中のシンポジストの先生方においていただき、現状と今後の可能性についてご討議いただきます。また2日目の特別講演では、精神科医の斎藤環先生から、「現代人が抱える依存性」についてご講演いただく予定です。

最後に、大会の日時と会場ですが、2014年6月21(土)～22日(日)、横浜駅から京急線で19分の金沢八景駅より徒歩4分、横浜市立大学金沢八景キャンパスになります。より多くの皆様にご参加いただきたく、宜しくお願い申し上げます。

大会長 松 下 年 子
(横浜市立大学医学研究科・医学部看護学科 教授)

ニュースレター原稿募集

学会では、学会員の主催する精神看護関連の活動を支援し、また、より広く交流を図れるよう、ニュースレターに掲載する原稿を広く募集しております。

皆様が主催される様々な精神看護関連の活動について、ニュースレターでの広報をご希望の際には、その活動内容、主催者（お名前とご所属）、開催場所・日時、参加方法、連絡先に関する原稿をお寄せください。

また、現在の精神保健医療や看護に関するご意見や問題提起、あるいは学会員の方々と共有したい情報などもお寄せいただければ幸いです。広報委員会で検討させていただきます。ニュースレターに掲載したいと考えています。皆様からの原稿をお待ちしております。

The Japan Academy of
Psychiatric and
Mental Health Nursing
*News
Letter*

編集後記

▼おかしな天候が続き、大雨により甚大な被害を受けた地域があると聞き及んでおります。被害を受けた方々に心よりお見舞いを申し上げます。ニュースレター第68号では、第23回日本精神保健看護学会京都大会のご報告を中心に、カラー版で作成をしております。このニュースレターが、京都での楽しい出来事を思い出すきっかけとなり、また、今後予定されている教育活動や第24回学術集会へ参加するきっかけになれば幸いです。

編集委員：畦地博子 田井雅子 畠山卓也 榎本 香

広報委員会 ホームページ担当：萱間 真美 ニュースレター担当：畦地 博子
(お問い合わせ先) メールアドレス：azechi@cc.u-kochi.ac.jp
TEL/FAX：088-847-8717